

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號六第

卷(十三第)

行發日一月六年九和昭

論叢

不動産の登録税に就きて……………法學博士 神戸正雄
新勞銀基金說について……………文學博士 高田保馬

時論

現今の思想問題……………經濟學博士 作田莊一
滿洲問題と國民主義……………經濟學博士 石川興二

研究

生産増加と貨幣需要……………經濟學士 中谷實
北海道練定置漁業に於ける漁場動員……………經濟學士 岡本清造
景氣觀測について……………經濟學士 祭原光太郎

說苑

定航海備船契約に於ける特約條項……………經濟學士 佐波宣平
百貨店出張販賣の本質……………經濟學士 堀新一

附錄

新着外國經濟雜誌主要論題
本誌第三十八卷總目錄

(禁轉載)

景氣觀測について (二・完)

祭原光太郎

三、診斷の仕方

景氣變動は經濟循環の經驗する波浪運動である。經濟はその事實上の發展に於て *gleichmässig* に前進せず、一つの波浪運動の形態をとつて進む。勿論その運動の形態は、かの季節運動の如く規則正しい姿を示さない。ワグマンの言葉をかりれば、後者が *rhythmisch gebunden* なるに對し前者は *rhythmisch frei* である。

經濟が現在かゝる波浪運動の如何なるヶ所にあるか、これを科學的に確定するのが景氣の診斷である。更に經濟が、波浪運動の如何なる局面に移るか、これを科學的に推定するのが景氣の豫斷である。景氣の診斷と豫斷を併せて假りに景氣の觀測と呼ぶ。

景氣觀測者の任務はこれに應じて、先づ現在の景氣狀態が如何なる局面にあるか、次に、如何なる局面がこれにつゞくか、この二つの間に答へねばならない。一般的に云つても、「一方一定時期の景氣狀態が確定するのみならず、更に進みては景氣の進行が豫測せられる。」²⁷⁾ 「In welchem Konjunktur stadium befinden wir uns? Welche Weiterentwicklung ist zu erwarten?」²⁸⁾ これが

27) 高田教授, 經濟學新講, 第五卷, P. 335.

28) Stucken, R., Die Konjunktoren im Wirtschaftsleben. 1932. S. 175.

普通である。しかし乍ら診断と豫斷とをかくの如く容易に直ちに並置するのはどうであらうか。

一たび豫斷と云ふことになる、かゝる企てそのものゝ可能性が既に問題となり、更にその *Green* が根本的に考察されねばならない。そこで茲では一應この二つを分離し、診断のみを取扱ふ。

吾々は先に、景氣變動と構造變化との關係を明瞭ならしむることが出来なかつたとは云へ、兩者が相互に密接なる關聯を有することは既に窺知し得たところである。従つて景氣變動の觀測は他方に於て構造變化の觀測を必要とするのである。商事上の實踐に於ても、景氣を觀測するに當り假令無意識的であるにせよ、構造觀測の行はれてゐるのは日常見るところである。そこで先づ兩者を區別し、意識的に兩者を兼ね行ふ場合をさし、ひろく經濟觀測と名付けよう。こゝでは景氣變動を對象とするもの、即ち謂ゆる景氣觀測を、さうしてその中にありて景氣診斷を問題とするのである。

經濟循環の中に現はるゝ諸々の變動量は、理論上は之を悉く統計的に捕捉し得る筈であるが技術上から云つて必ずしもさうではない。技術上捕捉し得べき變動量の變動を吾々は徵候と呼ぶ。蓋しそれは、循環過程の動搖の直接なる外的表現であり、循環過程の攪亂はかゝる變動量の動搖として吾々の目前に現はれるからである。經濟循環に於る變動量は、恰も人體に於る呼吸、脈搏、體溫に等しい。循環過程が如何にして攪亂せらるゝかは直接吾々の眼に觸れないのであるが、變動量の變動はこれを直接捕捉し得るものである。従つて變動量の動搖は、循環過程の動搖攪亂を

診断する上についての、最も直接的なる手掛りと云はねばならぬ。それ故吾々にとりては、景氣診断をなさんとするに當り、統計的手段に依る徴候觀察を行ふべきことは、自明のこととなるのである。一、全身狀態としての健康疾病の程度は、これをその徴候たる脈搏體溫呼吸等によつて知る外はないやうに、經濟の全體狀態としての景氣即ち景氣的位置もまた、其種々なる徴候によつて認められる。²⁹⁾」かくして景氣診断に於ては、何よりも先づ徴候觀察が行はねばならない。こゝに徴候觀察と云ふのは、觀測實踐に當り直接的には徴候を唯一の手掛りとすものを云ふ。

經濟學上徴候とは何んぞやと云ふことは、極めて興味ある問題である。景氣論に於ては徴候なる言葉が常に使はれてゐるのであるが、それにも拘らず明確にこの概念を規定してゐるは人少ない。徴候觀察を提唱するワーゲマンですら、何等積極的な規定をこの言葉に與へてはゐない。³⁰⁾吾々は變動量の中、技術上捕捉し得る限りのものは、これを悉く徴候と呼ぶのである。従つて特定の系列を選択するとか、³¹⁾或は系列の組合せを俟ちて始めて徴候と云ふのではない。景氣に鋭敏なるものにせよ、しからざるものにせよ、個々の系列の動きは唯それだけですべて徴候である。景氣診断の目的から、如何なる系列を選択するかと云ふことは、自ら別個の問題に屬する。しかし乍ら景氣の徴候系列は、これを唯個別的に見たのでは意義が少ない。ワーゲマンは次の様に云ふてゐる。³²⁾「“Konjunktur”と云ふ言葉は中世星學のラテン語から出てゐる。この言葉は星學では、その時々々の星辰相互の位置をさすところの“Konstellation”と云ふ言葉と同じ意味に用ひら

29) 高田教授、經濟原論 p. 291.

30) Schneider, Methoden der Konjunkturforschung. Z. f. B. 1929. Heft I S. 33.

31) Poul Eppstein, Die Symptomatik in der Konjunkturforschung. 1933. S. 10.

32) Wagemann, Einführung in die Konjunkturlehre. 1929. S. 18.

れた。十七世紀には既にこの言葉は、日常の用語に轉化し、間もなく商人間の用語に取り入れられて事業状態の變動を現はす言葉となつた。……個々の經濟事象はそれだけで獨立してゐるものではない。全體的な經濟變動の關聯からのみ理解し得るのである。」又 Tyszka は “Das Wort Konjunktur leitet sich ab von dem lateinischen ‘Conjugere’ = verbinden, und man versteht darunter das Verbundensein, das Zusammenwirken der verschiedensten wirtschaftlichen Faktoren zu einer Gesamtlage, der Marktlage.” と云つてゐる。³³⁾ かくして徵候系列の相關状態を確定することが、景氣状態の決定の上に特に意義を持つて來ることが分るのである。

しからば景氣の診斷は如何になさるべきであるか。景氣状態を判斷するには、何よりも先づ、判斷の基準を設けることが必要である。「景氣がい」と云ふのは如何なる状態であるか」と問はれた時、吾々は如何に答へるべきであるか。何を根據として答へ得るか。景氣が好轉したとか、景氣が悪化したとか云ひ得るためには、そこに、かく判斷し得るだけの根據又は基準がなければならぬ。しかるに徵候觀察にありては、判斷の手掛り若しくは材料を、直接的には經濟變動の根底に横はる基本過程に求めず、單に經濟の表面に現はるゝ様相若しくは徵候に求めるのである。従つて基準の設定と云ふことは、こゝでは様相定型若しくは徵候定型を樹立することに外ならぬ。様相形象と徵候形象とを併せて假りに景氣局面と稱するならば、何よりも先づ、局面定型を確立せねばならぬのである。若しもかゝる局面定型を樹立することが出來なければ、徵候觀察(吾

33) Tyszka, Konjunkturvorhersage. Der deutsche Ökonomist. 1928. S. 1129.

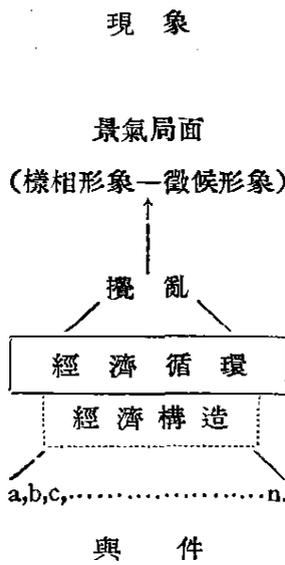
々の意味に於る）に依る景氣診斷も亦不可能と云はざるを得ないであらう。かくて何等かの局面定型を確立すること、これが徴候觀察に依る景氣診斷の本質である。この際吾々は、定型なる言葉の意味を取り違へてはならない。それは必ずしも、あらゆる景氣波動には常に共通にして不變的な定型があると云ふ意味ではないのである。

基本過程が進むに伴れて、經濟の表面には諸々の事象（景氣的事象、構造的事象）が生起し來る。變動量は何れも、多かれ少なかれ、相互に聯關を保ちつゝ或ひは鋭敏に或ひはさうでなく動搖し振動する。かゝる過程に現はるゝ出事ごとを、一定の Merkmal の下に捉へ、これを目標として景氣過程の局面を區分する。即ち經濟の表面に現はるゝ事象の定型が描き出され、それが一定の Merkmal を基準として幾つかの局面に區分される。さうして各局面に任意の名稱が與へられる。A 情勢は恢復期、B 情勢は衰頹期と云ふ如く。

吾々は様相形象と徴候形象とを區別する。³⁴⁾ 様相形象は景氣的事象又は出來ごとの記述である。

徴候形象はこれを統計的に確定したるものである。それは個々の變動量が景氣過程に於て如何に振動するか、更にそれらを個別的に見るのみならず、系列相互の運動關係が如何なる姿を示すかを確定する（ワ―ゲマンの四基本形態）。さうして一般的景氣局面を

景氣觀測について



34) Eppstein, a. a. O., S. 10.

變動量の配置状態に於て、系列相互の相關状態に於て確定しようとするのである。従つてこゝでは相關計算が特に重要なものとなつてくる。様相形象は必ずしも統計的に捕捉されるとは限らない。そこで一應この兩者を區分するのが便利であらう。唯兩者は常に並置されねばならない。

さてかくして確立された局面定型に、與へられたる現實の局面情勢を比較する。さうすれば經濟が現在如何なる局面にあるか、即ち如何なる景氣段階にあるかを判定することが出来る筈である。³⁵⁾しかし乍ら若しもこの際、現實の局面情勢に該當するものが、局面定型の中に見出し得なかつたならば、換言すれば、現實の情勢が定型通りの姿を示さなかつたならば、その時には別の途に光を求めるか若しくは定型そのものを建て直さねばならない。これに就いてはこゝには論及しない。

かくて徵候觀察に於ては、局面定型、就中徵候定型の設定が何よりも重要なものとなる。ところでかゝる徵候定型を確立するに際しては、三つの問題に當面せねばならない。それらは勿論何れも相互に密接なる關聯を有するものであり、従つて別々の問題ではない。(第一)は、如何なる徵候系列を選択すべきかと云ふことである。勿論知識の整理のために或はその他の目的から、經濟の全領域に亘る若しくは一企業の内部に於るあらゆる徵候を數へ挙げ、これを分類し、一定の體系に秩序付けることは屢々試みらるゝところである。けれども景氣觀測と云ふ觀點からすると、自ら事情が異つて來る。單に漫然と一切の徵候を數へあげると云ふことは、景氣觀測の目的から毫も有効ではない。のみならずかゝることは技術上から云つても不可能に近い。従つて系列

35) Gutfeld, A., Konjunkturprognose und Konjunkturpolitik. 1929. S. 3.

36) Röpke, Die Konjunktur. 1922. S. 113.

37) Deutsch, a. a. O., S. 176.

の選擇が行はれねばならない。系列の選擇に當りては何等かの評價が行はれねばならぬ。かゝる評價の基準は何處に求めらるべきかであるか。これが第一の問題である。(第二)は徵候定型の中に幾何の系列を取り入るべきかと云ふことである。云ふ迄もなくこれは、第一の問題が解決すれば自づと解ける問題であるかも知れぬ。こゝでは便宜上一つの問題としてかゝげる。これには大體二つの方針が考へられる。甚だ幼稚な名稱ではあるが、假りにこれを「少數主義」と「多數主義」と名付けよう。Stucken³⁸⁾がいれに就いて次の様に云ふてゐる、「吾々はハーバードの三曲線法の如く少數の代表的な系列で満足するか、或は最初から、もつと多くの系列を捕捉して、出來得る限り廣汎なる基礎の上に現在の景氣狀勢を確定しようと努めることが出来る」³⁸⁾。更に(第三)の問題は、系列の選擇に當り、經濟の本質に對する選擇者の態度である。云ひ換ふれば經濟の本質に關する見方である。例へば經濟をメカニズムと見るかオルガニズムと見るかに依りて、或る程度まで徵候定型の建て方の上に影響を及ぼして來るからである。

さてしからば、判斷の基準となるべき局面定型は如何にして獲得せらるゝか。こゝでは單に、從來如何なる方法が存してゐるかを述べるにとゞめる。従つて景氣診斷は常に何等かの理論を前提とせねばならぬと云ふ如き前提から出發する³⁹⁾のではない。局面定型の設定に關しては、從來對立した二つの立場がある。一つは經驗的歸納法であり、他は理論的演繹法である。⁴⁰⁾さうしてこれらの各々は、局面定型の建方に關して、何れも更に二つの態度に分れる。これは景氣局面に對す

38) Stucken, a. a. O., S. 176.

39) Morgenstern, a. a. O., S. 24.

40) Eppstein, a. a. O., S. 64.

る見方の相違である。一つはあらゆる景氣波動の局面には共通にして不變的な定型があるといふ立場であり、他はこの様な景氣局面の不變的な定型は存在しないと云ふ立場である。前者の立場に立つとすると、既に何處にでも云ひ古されてゐることではあるが、次の様に云ふことが出来よう。景氣局面には一定の固定的な定型がある。過去の景氣運動に起つた事象聯關は、後の景氣運動にも繰り返されてゐる、従つて現在のそれに於ても亦繰り返さるゝ筈である。それ故この場合診斷の手續としては、現在の景氣狀勢が過去の景氣狀勢のどの段階に當れるやを確定しきへすればいゝ。更に過去に於てその後如何に發展したかを確め、これに基きて現在に於ても、將來何が期待せらるゝかを豫測することが出来る、とかう云ふのである。しかし乍らかゝる診斷の仕方は、景氣局面に固定的な定型がある場合にのみ限られるとは思はれぬ。共通にして普遍的な局面の定型があるにせよ無いにせよ、問題は、判斷の基準となる何等かの定型が樹立せられ得るや否やと云ふことである。定型樹立の可能性如何が問題であつて、固定性如何は問題ではない。この際固定的な定型が存在する若しくは存在せずと云ふも、その固定的と云ふ程度に幾多の段階があることは云ふ迄もない。しかしこゝではこれには興味がない。

局面定型の設定法に經驗的歸納法と理論的演繹法の二つあることは上述したる如くである。前者即ち經驗的歸納法は、經濟の表面に現はるる様相形象若しくは徵候形象の單なる表面的觀察に終始するものである。それは事實の記述乃至は確定に過ぎず、何故にしかるかを明かにしない。

それは理論を放棄して單なる表面觀察に満足する。従つて表面の根底に進行する基本過程を把握しようとはしない。經驗的歸納法はかゝる態度からその局面定型を樹立するのである。

これに對して理論的演繹法は、基本過程の認識からその局面定型を演繹する。それは單に、景氣的事象の表面的觀察に満足せず、これを掘り下ぐることに依りてその下に横はる基本過程を把握し、そこから局面定型を引き出して來る。かくて演繹法は、一定の景氣理論に立脚し、これから局面定型を誘導するのである。従つてこゝでは局面定型は一に、基本過程を如何に認識するかにかゝる。假に太陽の黒點と云ふ周期的に回歸し來る非經濟的な與件の變化に依りて循環過程の攪亂を説明するものありとすれば、かゝる認識に基きて局面定型を樹立することは、最も容易であらうと思はれる。理論的演繹法に於て注意せねばならぬことは、景氣理論は幾多の條件を捨象し、單純化せられた前提から出發するのであり、又それは具體的なものゝ一面を高揚したる場合が多いのであるから、これを具體的な個々の場合に適用するに際しては、特殊の條件を加へてこれを修正せねばならぬと云ふことである。即ち局面定型の設定に理論を利用せむとする時、純粹の理論のまゝでは何等役に立たないと云ふことである。例へば現實の經濟に於ては經濟人なるものは存在しないが、理論の世界に生棲してゐるのはすべて經濟人である。⁴¹⁾

經驗的歸納法にせよ、理論的演繹法にせよ、それが一定の形象を定型なりと主張し得るためには、かく主張し得るだけの根據が問はれねばならない。さうしてそれらは何れも、先に擧げたる三つの問題に對して夫々解答を與へねばならぬのである。

41) 尤も Schumpeter はこの根本假定を變ふることに依りて、その動態論を構成する (Lutz, F., a. O., S. 99.)

經驗的歸納法の代表をなせるものはハーバードの觀測法である。これに對し理論的演繹法の代表をなせるものはジンガの觀測法である。さうしてワグマンのそれは、或る意味に於て恰かもこの中間にあるものと云ふことが出來よう。これ等は何れも直接的には徵候のみに依りて景氣の診斷を行ふこと且つ何等かの徵候定型を設定してゐると云ふ點に於て共通してゐるのである。次にこれらの各觀測法に於る定型樹立の仕方に關する相違について一言する。

ハーバードは次の如き仕方を採用した。「略々五十の系列を研究した。その中二十三ヶの系列を分析し修正し調整した。更にその中三つの系列は吾人の目的に不適當であることが分つた。残り二十の系列は事業活動の消長と關聯して顯著なる循環運動を示す。

二十系列の波は似てはゐるが、同時に違つたところもある。山から山又は谷から谷までの長さは略々同じである。けれども各系列の頂點と底點の時點は同じではない。にも拘らず波動運動が同時的であると見らるゝ系列のグループがある。これは五つに分けることが出來るが、これに屬するものは何れも似てゐて且つ同時的な循環運動を示す。⁴²⁾かくてこれらのグループに屬するものを一ヶの代表的な系列に合成する。更に各種の理由から五つのグループを三つのグループに作製する。かくして出來上つた三つの系列の間には、規則的な繼起の順序關係あることが經驗上確定されるのである。さうしてこの三曲線の運動關係に依りて一般景氣局面の診斷を行ふのである。

これに對し Wirtschaftsdienst に於るジンガの觀測法は景氣の本質に關する一定の把握に基き、⁴³⁾そこから選擇された代表的な徵候系列の運動關係に着目する。謂ゆる Musterkreislauf が設定せら

42) Persons, Indices of General Business Conditions. Review of Economic Statistics, April 1919, p. 111.

43) "Wie kann die Auswahl die zu beobachtenden Erscheinungen erfolgen? Offenbar am besten Auffassung über das Wesen der Konjunkturen..." (Schpiethoff, Wirtschaftsdienst. Heft. 1 1926.)

れ、これを判断の基準として局面の診断が行はれる。こゝでは既に景氣運動の因果聯關がつかまされてゐる。

ワーゲマンは、謂ゆる「整序原理」に基きて多數の系列を選択し、經濟に對するその有機觀に立脚してかのバロメーター體系を作成する。さうして各指標の全體的な配置關係に於て景氣局面を確定しようとするのである。それは景氣運動の理論的分析にまでは進まないのであるが、徵候定型の設定に際しては、經濟循環に對するある程度の理論的考察をその基礎としてゐるのである。これによつて局面定型の設定に對する各々の態度の相違が窺はれるのである。なほこれ等の謂ゆる Marklage の觀察に加へて、Betriebsbeobachtung を行ふ際にも以上の原理がそのまゝ當嵌る。⁴⁴⁾

最後にこれまで觸れなかつた二つの問題が残されてゐる。一つは系列分析の問題である。變動量の時系列からトレンドを除去することは、今日では景氣統計上の一般的な操作となつてゐる。時系列の分析が謂ゆる統計的景氣研究の上に、如何に大きな光明を投じたかはワーゲマンが、「景氣運動の尨大にして錯綜したる多様性を、各種の運動形態に分析するに至つた時、こゝに景氣變動論建設のための最も重要な礎石の一つが据えられたのである。⁴⁵⁾」と云ふてゐるのを見ても知らるゝところである。しかし乍ら、單なる形式的機械的なる統計の技術的操作による時系列の分析が、果して何處まで價值を有するのであるか。吾々は先に、景氣運動を單純に循環過程の絶えざる攪亂であるとなしたのである。少くとも複雑極まりなき資本主義的經濟循環を考察する限り、循環過程は瞬時と雖も攪亂せられざることはない。勿論攪亂せられつゝ成長し發展はする、それが變動量の絶えざる動搖として現はれる。しかし何處までが謂ゆる正常的發展であるかを系列の

44) I. saac, Konjunkturforschung vom Standpunkt der Betriebswirtschaftslehre S. 69. Der Markt der Fertigware. 1929. Gloger, K. Konjunktursbeobachtung 1928. S. 50 以下參照。

45) 小島昌太郎教授監修邦譯。ワーゲマン、景氣變動論。(昭和八年) p. 64.

46) 豊崎倫教授、統計的景氣分析と經濟的正常均衡、大阪商大經濟研究年報第四號 p. 153.

上で捕捉することは決して容易ではない。のみならず、現實の經濟の中に、正常的發展なるものを考ふること自體が既に問題と云はねばなるまい。吾々は時系列から季節運動を除去しはする。季節運動は同じく循環過程の一種の攪亂ではあるが、これはしかし一年を單位とする略々確定した軌道を踏むところの攪亂であり、靜態に於ても考へらるゝものにして、規則的な攪亂であるが故に又規則的に調整せられ、云はゞ攪亂とは感ぜられざるものである。⁴⁷⁾かくて季節運動はこれを除去するにしても、それ以上進んで系列を分析することについては、吾々としては今のところ何等の根據をも有しないのである。個々の時系列を個々別々に單なる統計上の技術的操作によりて分析し、云はゞ「殘基」(Resbestand)⁴⁸⁾として残りたる形態をさして景氣運動を現はすものなりとするのは、甚々しく危険であると云はねばならない。

しかし乍らこれは結局、景氣研究に於る理論的な立場と統計的な立場の對立の一つの場合を示すものであるのかも知れない。若し然りとすればかゝる問題がこゝで簡單に解ける筈がない。統計的な立場に立つ人々の景氣概念の規定は例へば次の如くである。「それは季節運動、趨勢運動、偶然運動以外のものにして、三年から六乃至七年に亘るところの社會の經濟過程の大部分に影響する活動度の上昇及び下降の回歸である」(ミツチエル)⁴⁹⁾。ところで理論的な立場に立つ人々の景氣に對する規定をこゝで一々擧げるワケにはゆかない。ミツチエルはかゝる立場の對立に關して次の様に述べてゐる。「經驗的な立場に立つ人々と純粹に理論的な立場に立つ人々とは、相互に利解し難いことが多い。しかし結局に於ては双方共、自己の小麥を相手の水車場のために準備するのである。學問の進歩は未知のものに對するこの二方面の探究の結合せられた產物である。景氣循環の研究に於てこのことが證明されねばならない。」⁵⁰⁾しかし乍らかゝるミツチエルの希望は、現

47) Simon, a. a. O., S. 30.

48) Wagemann, Einführung, S. 36.

49) Mitchell, Business Cycles, 1928. p. 468.

50) Mitchell, ibid. S. 189.

在のところではまだ到達せられてはゐないやうである。

今一つは系列の合成に關する問題である。これは云はゞ前と逆の問題と云へよう。田村市郎教授はその著「我國の景氣循環と景氣指數」(昭和五年)に於て次の様に述べてゐられる。「本來この現象(景氣現象)は非常に廣汎なる範圍を被ふところの極めて複雑なる現象であり、その波動は經濟界のあらゆる事象に及び、而もその波動たるや大小高定遅速様々であつて、萬波悉くその形狀速度を異にする。……若しこの複雑なる現象の全體性を手際良く摺んで、その全體としての動きの方向を簡單明瞭に、一目瞭然たる形式に於て表現する様な工風が存するならば、非常に好都合と云はねばなるまい。けれどもかくの如き廣大複雑なる現象に於て簡單にその全體性を把握し、全體としての動きの方向を見定めると云ふことは仲々容易の業ではない。然し乍ら、それが廣大複雑なる現象であり、混沌として捕捉し難きものであればある程、簡明にその全體としての動きを表現する様な工風が愈々切實に要求せらるゝ譯である。景氣循環指數或は短く景氣指數と呼ぶるゝものは、經濟界の全體としての動き、特にその循環的動き(發展的運動及び季節運動から遊離せられたる)をば、單純にして一瞥の下に伺ひ得る様な形式を以て表現せんとするものに外ならないのである。」

蓋し複雑なものを簡單な様式で表現したいと云ふのは自然の要求である。かゝる要求の極點に立つものはかの謂ゆる Generalindex (單一の)であらう。かゝる企は既に可成り古くから行はれてゐたものゝやうである。しかし乍ら一般に系列の合成と云ふ統計上の技術的操作が、景氣診斷の上から如何に考察さるべきかは、これ亦大きな問題を提供するものと思はれる。こゝにはこの二つの問題を單に問題として提起するにとゞめる。(一九三四・三・一五)